



2020年5月19日
 寿スピリッツ株式会社
 (コード番号:2222 東証第一部)
 問合せ先 取締役経営企画部 部長 松本真司
 TEL:0859(22)7477

記載金額は、表示単位未満を切り捨て
 比率は、千円単位の金額をもとに計算

1. 業績ハイライト

2020年3月期 通期業績

売上高 10.8%増収、純利益3.2%増益

(第4四半期会計期間:売上高14.8%減収、四半期純利益 88.5%減益)

好調トレンドから、年度終盤は新型コロナウイルス感染拡大の影響により様相が一変し、事業活動の縮小を余儀なくされ、第4四半期が大幅な減収・減益となる。当期純利益は僅かながら前期を上回り、最高益を更新。

2. 通期業績(対前期比)

売上総利益率は、0.5ポイント増加 / 経常利益は7.7%増益

(単位:百万円、%)

	前期 (2019年3月期)		当期 (2020年3月期)		対前期	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	40,768	—	45,180	—	4,411	10.8
売上総利益	23,882	58.6	26,702	59.1	2,819	11.8
販売管理費	17,906	43.9	20,247	44.8	2,341	13.1
営業利益	5,975	14.7	6,454	14.3	478	8.0
経常利益	6,012	14.7	6,475	14.3	462	7.7
親会社株主に帰属する当期純利益	3,972	9.7	4,100	9.1	128	3.2
EPS(円)	127.64		131.76		4.12	
BPS(円)	587.87		680.11		92.24	
ROE(%)	23.5		20.8		△ 2.70	
1株当たり配当金(円)	40.00		40.00		0.00	

(注) 詳細は、決算短信 2ページ「連結経営成績に関する定性的情報」をご参照下さい。

3. セグメント別の業績

年度終盤の新型コロナウイルス感染拡大を受け、とりわけ繁忙期にあたる3月の落ち込みが影響し、
 営業利益は、シュクレイ、ケイシイシイがともに前期を下回る

(単位:百万円、%)

	売上高				営業利益		
	前期	当期	増減額	増減率	前期	当期	増減額
シュクレイ	13,860	16,198	2,338	16.9	2,089	2,058	△ 31
ケイシイシイ	12,011	12,700	688	5.7	1,552	1,291	△ 261
寿製菓・但馬寿	10,079	10,572	492	4.9	1,073	1,351	278
販売子会社	5,829	6,175	346	5.9	466	523	56
九十九島グループ	3,759	4,522	762	20.3	119	374	254
その他	321	812	490	152.8	△ 91	△ 176	△ 85
セグメント計	45,861	50,980	5,118	11.2	5,210	5,423	212
(調整額)	△ 5,092	△ 5,799	△ 707	13.9	765	1,031	266
合計	40,768	45,180	4,411	10.8	5,975	6,454	478

(注) 詳細は、決算短信2ページ「連結経営成績に関する定性的情報」をご参照下さい。

4. 四半期業績の推移

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、第4四半期は20四半期ぶりに減収・減益に

(単位:百万円、%)

	2019年3月期				2020年3月期			
	1Q(4-6)	2Q(7-9)	3Q(10-12)	4Q(1-3)	1Q(4-6)	2Q(7-9)	3Q(10-12)	4Q(1-3)
売上高	8,601	9,746	11,267	11,153	10,626	11,760	13,287	9,505
(増減率)	8.6	4.8	9.1	13.4	23.5	20.7	17.9	△ 14.8
営業利益	829	1,321	2,167	1,657	1,554	1,963	2,672	263
(増減率)	55.1	0.5	15.2	29.4	87.4	48.6	23.3	△ 84.1
経常利益	835	1,322	2,191	1,663	1,567	1,981	2,693	233
(増減率)	52.4	0.0	15.9	29.0	87.7	49.8	22.9	△ 86.0

5. 公表数値に対する達成率

業績予想に対する達成率 売上高 100.0%、純利益 90.1%

(単位:百万円、%)

	業績予想	実績	増減額	達成率
売上高	45,200	45,180	△19	100.0
営業利益	6,970	6,454	△515	92.6
経常利益	7,000	6,475	△524	92.5
親会社株主に帰属する当期純利益	4,550	4,100	△449	90.1

(注) 業績予想は、2019年5月13日付公表数値

6. 新型コロナウイルス感染拡大の業績に与える影響

<2020年3月期>

- 年度終盤、政府及び自治体からの外出自粛要請に伴う移動の減少などにより、訪日客減少に伴うインバウンド売上高の減少に留まらず、国内全域で主要な販売チャネルでの売上高が軒並み急激に落ち込み、大幅な生産調整を余儀なくされた。とりわけ繁忙期にあたる3月が売上面、利益面ともに大幅に落ち込む。
- 第4四半期の月別売上高は、1月が前年同月比15.4%増、2月が同 5.7%減、3月が同44.8%減。
- 決算において、たな卸資産の将来販売可能性を見積り、「たな卸資産評価損」248百万円を特別損失に計上。

<足元の状況>

- 4月の政府による全国を対象とした「緊急事態宣言」発令を受け、外出自粛要請に伴う移動の減少や出店施設の臨時休業などにより、事業活動の大幅な縮小を余儀なくされている。
- 4月の売上高は、前年同月比82.4%減と大幅な落ち込みとなり、5月前半も緊急事態宣言の延長を受け、4月と同様の状況。

<2021年3月期の業績予想及び配当予想について>

- 現時点では「未定」。業績予想が可能となった段階で、速やかに開示する予定。

以上